

病害虫発生予察情報予報第 11 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
大麦	1. 網斑病 一部圃場で発生が認められる。発生状況を随時確認し、発生圃場では3月の茎立期～出穂期に防除を実施する。				

作物名	病害虫名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病			260~262	 タマネギ べと病 一次伝染株
	早生マルチ	やや多	やや多		
	中晩生	やや多	やや多		
	ポトリチス葉枯症	並	並	263	
	白色疫病	並	並	264~265	
	ネギアザミウマ	並	並	270~271	
	1. べと病 感染拡大を抑えるには、伝染源となる一次伝染株の抜取りが重要である。そのため、各ほ場で状況を確認し、発生が認められた場合には速やかに株の抜取りを行う。また、二次伝染防止のために2月下旬からの定期的な薬剤防除を確実に実施する。(平成31年1月18日付け病害虫対策資料第11号参照)。				
イチゴ(本圃)	ハダニ類	並	並	208~209	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	198~200	
	灰色かび病	やや多	やや多	201~202	
	アブラムシ類	やや多	並	213~214	
	1. アザミウマ類 発生が多く認められる。被害を抑えるため、開花盛期を避けて低密度時に防除を徹底する。				
キュウリ	べと病	多	多	178~179	 キュウリ うどんこ病
	うどんこ病	多	多	176~178	
	褐斑病	やや多	多	181~182	
	アザミウマ類	やや多	多	190~191	
	コナジラミ類	多	多	189~190	
	1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	多	並	225~226	 コナジラミ類
	灰色かび病	並	並	220~221	
	コナジラミ類	多	多	151~153 228~230	
	1. 葉かび病、灰色かび病 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせで防除する。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、植物体表面での結露を防ぐため、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。				
	2. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病罹病株の発生を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。				
ナス	すすかび病	やや少	並	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	並	並	234~235	
	菌核病	並	並	237	
	アザミウマ類	並	やや多	154~158 241~242	
	コナジラミ類	やや少	並	151~153 242~243	
1. 茎腐細菌病・褐斑細菌病 一部圃場で発生が認められる。発病株を認めた場合は発病部位を早急に取り除く。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	並	並	386~387	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	やや多	やや多	391~392	
	アブラムシ類	並	並	393~394	
	ハダニ類	並	並	392~393	
	ハモグリバエ類	並	並	395~396	
1. クロゲハナアザミウマ 一部圃場で発生が多い。成長点や葉裏での発生状況をよく確認し、低密度時からの薬剤防除を実施する。薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

2 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 2 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 31 年 1 月 25 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 2 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	30 (6.7°C)	40	並
降水量	40	30 (77.5 mm)	30	並

Ⅲ. 2月の予報

タマネギ

(定期調査 20 圃場)
調査日：1月18、24日



定期調査圃場の様子

1. べと病 (早生)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年0.003%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

②定期調査以外の圃場で一次伝染株の発生を認めた (±~+)。

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。 (±~+)

(3) 平成30年12月の佐賀市の降雨日数は20日と多く、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。 (±~+)

(4) 2月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

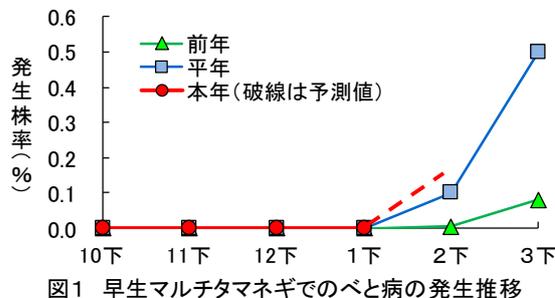


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

2. べと病 (中晩生)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年0.00%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。 (±~+)

(3) 平成30年12月の佐賀市の降雨日数は20日と多く、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。 (±~+)

(4) 2月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

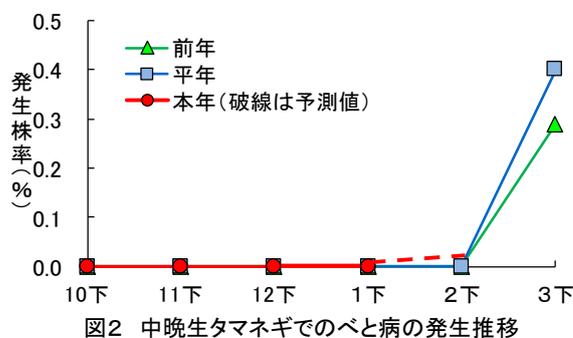


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

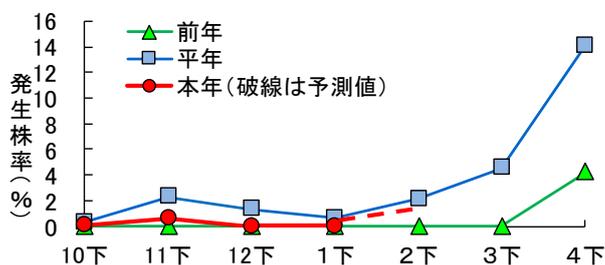


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 4月下旬以降は、中晩生品種を中心に調査

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.6%、前年0%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

(2)2月の気象予報

気温が平年並で並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1)発生初期にかけむらがないように薬剤防除を実施する。

イチゴ (本圃)

(定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場)

調査日：1月22～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：10.6% (平年 11.0%、前年 17.1%)

平年比：並 (±) 前年比：やや少 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

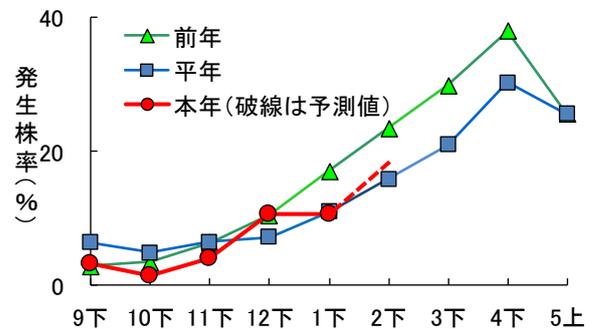


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.7% (平年 6.1%、前年 1.1%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

(2)2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1)春先の発生を防ぐため、発生圃場では約2週間間隔、発生のない圃場では1ヶ月間隔での薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。

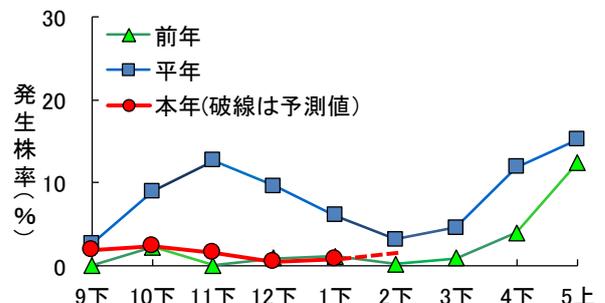


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりよりやや多い)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生果率：0.06%* (平年0%、前年0%)

平年比：多 (+) 前年比：多 (+)

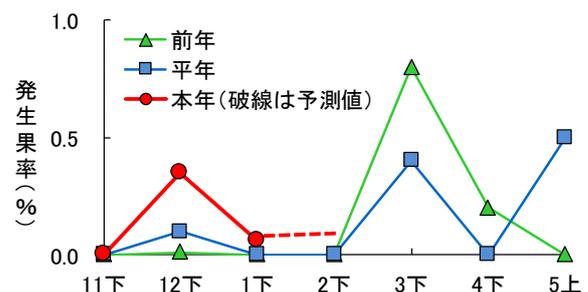


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

※定期調査での発生圃場は1圃場のみであった。

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 受粉後に残った花卉が果実での発生の原因となるので、ブローア等を用い定期的に花卉を除去する。

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.7%※（平年0.1%、前年0.3%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

※定期調査での発生圃場は1圃場のみであった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P541～544）。

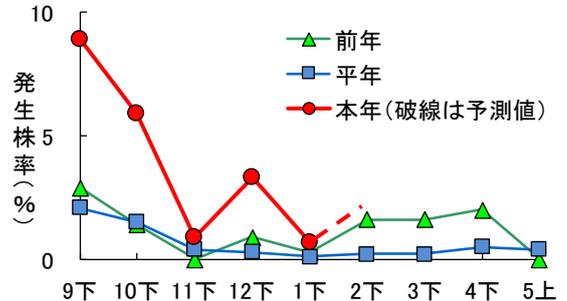


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

(定期調査7圃場)

調査日：1月19日～20日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：11.4%（平年1.5%、前年0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に薬剤防除を徹底する。

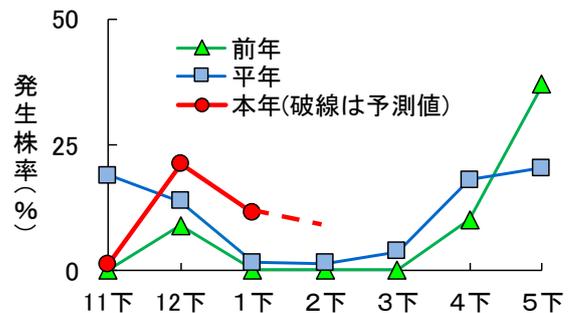


図1 キュウリベと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：27.1%（平年4.0%、前年2.0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

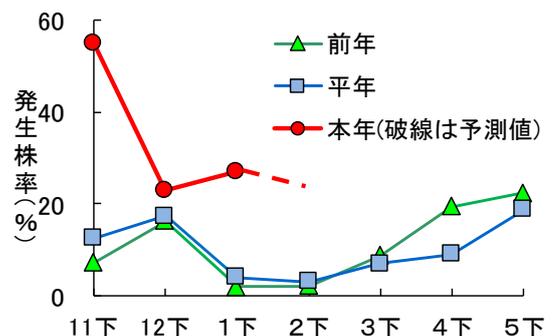


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

(1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：4.3%（平年0.9%、前年0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に薬剤防除を徹底する。

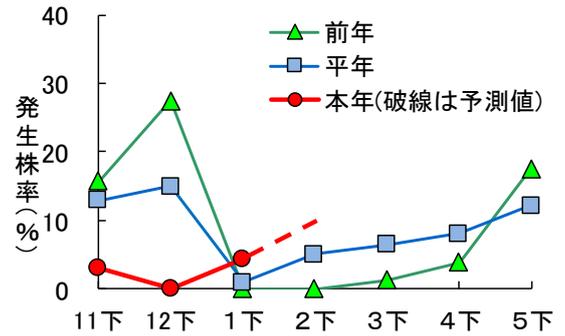


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：3.6%*（平年1.3%、前年2.0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

*発生は植え替え前の圃場のみで発生株率25%であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

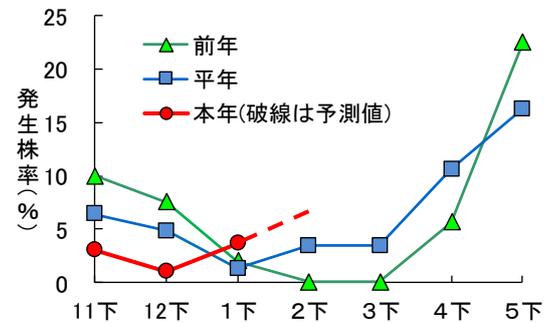


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：7.9%*（平年0.5%、前年0%）

平年比：多<+> 前年比：やや多<±~+>

*2圃場で発生を認め、植え替え前の圃場で発生株率50%であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

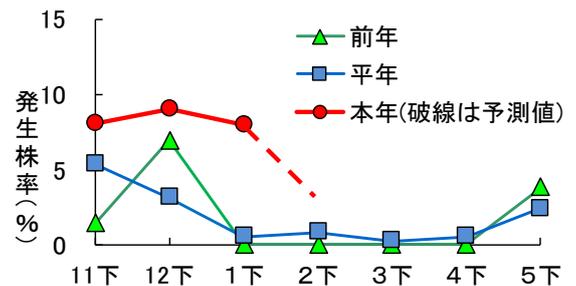


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：8圃場、防除員6圃場

調査日：1月22~24日

1. 葉かび病

1) 予報の内容



定期調査圃場の様子

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：8.6%（平年 3.4%、前年 7.1%）

平年比：多<+> 前年比：並<±>

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

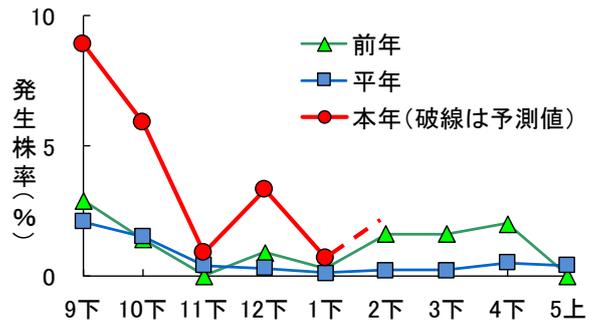


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：1.1%（平年 2.5%、前年 2.1%）

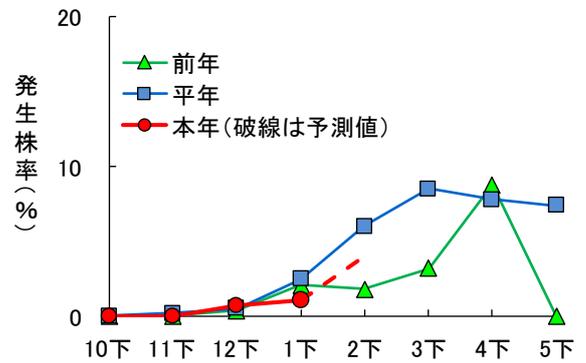
平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照



3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

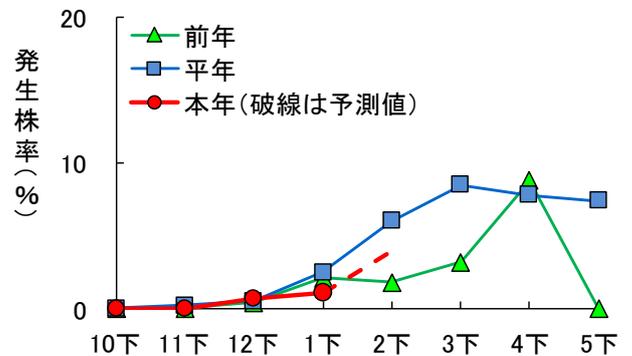
① 定期調査（図1 参照）

発生株率：2.5%（平年 1.0%、前年 0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

ナス（促成）

定期調査：13 圃場
調査日：1月23～25日

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

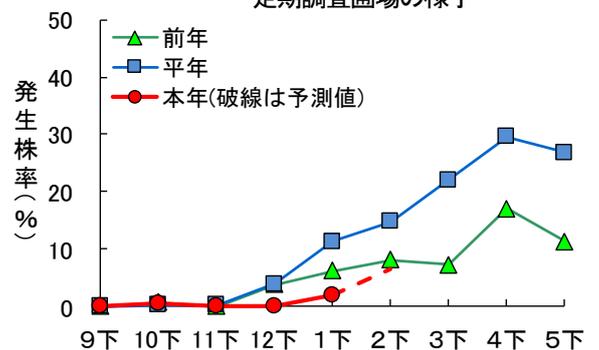


図1 ナスすすかび病の発生推移

発生株率：1.9%（平年 11.3%、前年 6.2%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病の発生を低く抑えるために、初発生を確認後、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.2%（平年 0.2%、前年 0.8%）
 平年比：並（±） 前年比：少（一）

(2) 2月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果実に残った花弁はできるだけ取り除き、過湿にならないよう定期的に換気を行う。特に、『PC筑陽』は花弁が残りやすいので、確実に取り除く。
 (2) 発生を認めた場合には、発病部位は早めに除去し、防除を実施する。

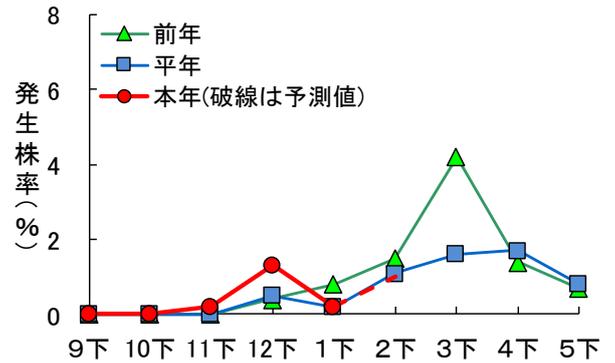


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：8.8%（平年 11.7%、前年 1.2%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

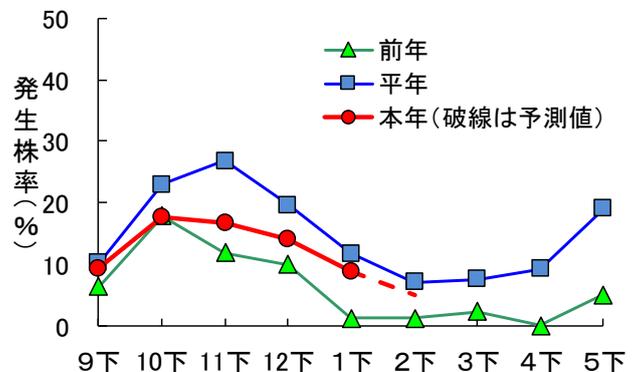


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：4.6%（平年 14.8%、前年 5.4%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

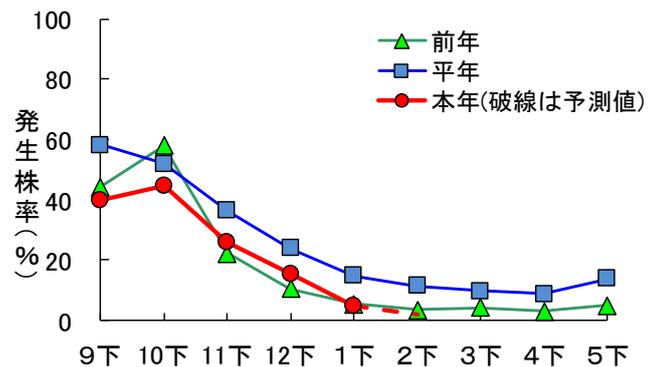


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) アザミウマ類の項と同じ。

キク

定期調査 (8 圃場)
 調査日: 1 月 23~25 日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

- 1) 予報の内容
 発生量: 平年並 (前年並)
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査 (図 1 参照)
 発生株率 0% (平年 0.6%、前年 0%)
 平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)
- (2) 2 月の気象予報
 降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

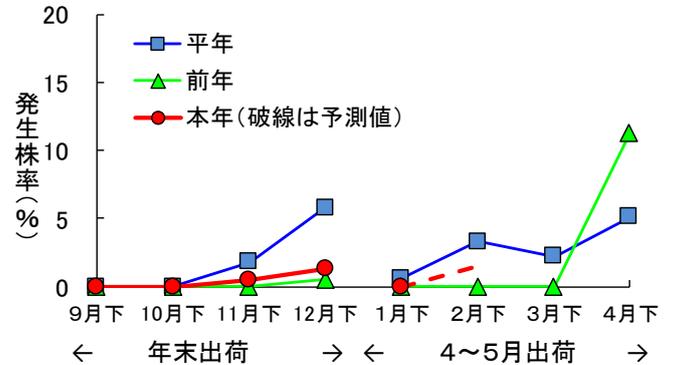


図1 キク白さび病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、薬剤による予防防除に努める。薬剤を散布する際には、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

- 1) 予報の内容
 発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査 (図 1 参照)
 発生株率 5.5%* (平年 0.3%、前年 0%)
 ※調査した 8 圃場のうち 2 圃場で発生がみられ、
 うち 1 圃場で発生株率 38%の圃場があった。
 平年比: 多 (+) 前年比: 多 (+)

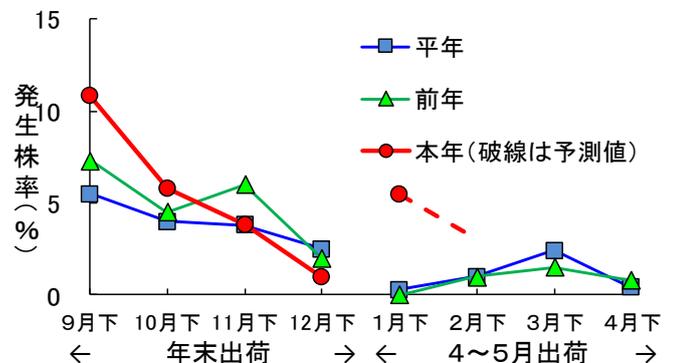


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp